

北海道・北東北の縄文遺跡群

「北海道・北東北の縄文遺跡群」には、1万年に及ぶ歴史があります。これらの遺跡は、日本の先史時代の人々について、土器を使い始めた頃から、定住の開始・発展・成熟までの物語を語ってくれます。これらの遺跡からの出土品は、洗練されたデザインのセンスを裏付けるものであり、集落間で交易が行われていたことの証拠を提示しています。出土品には、漆を使った腕輪、ヒスイ玉、表情豊かな土偶、様々な形式の装飾土器などがあります。各遺跡からは、先史時代の北日本での暮らしに光を当てる新しい発見が生まれています。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成するのは17の遺跡であり、さらに2つの遺跡が関連遺跡だと考えられています。これらの遺跡の特徴は、周辺の多様な自然環境にあります。これらの遺跡は、海岸、川の近くおよび丘の上に位置しています。これらの遺跡のほとんどは自由に歩くことができ、多くの遺跡には、縄文時代（紀元前13,000年～紀元前400年）の暮らしを紹介し出土品を展示する施設が併設されています。これらの遺跡は、どんな順番でも訪れます。最初期の大平山元遺跡からでもいずれかの環状列石からでも可能です。